

前年度の学校評価

ア 自己評価結果等

本年度の重点目標	地域に愛され期待される学校づくりを推進する ―― 志（こころざし）を持ち、学び続ける人を育てる ――		
項目（担当）	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
総務部	P T A行事の活性化	役員会、委員会で、慎重に企画、検討を行う。各種研修会、講演会での参加者を増やしたい。案内が保護者の手元に確実に届くようにする。	役員、委員は意識が高く、協力的であるが、一般会員の各行事への参加率がまだまだ低い状況にある。役員、委員を通じて参観を呼びかけ、学校の現状を見てもらう機会とする。
	学校行事の円滑な運営	式典実施に向けて、早い段階から分掌、学年への連絡、調整をはかる。生徒に自分たちの式典であることを自覚させる。	企画の段階で役割分担をしっかりと行い、高い意識を持って、全職員で円滑に動くことができた。
教務部	授業規律の確立に努める。	生徒の授業態度（授業遅刻、教科書・ノート等の持ち物、私語等）を履修要件にからめ、厳しい態度で授業に臨む。	授業履修カードを活用し、教務主任や教頭指導を行ったため、以前より授業規律は良くなっているが、さらなる向上が必要である。
	進学希望者の学力を向上させる。	進学希望者、特別進学類型をはじめとする上位層にも目を向け、大学受験で生徒の進路希望が叶うよう学力をつけさせる。	振り返り学習、土曜学習等を実施した。今後これらをもっと有効的に行い成果を上げていきたい。
生徒指導部	基本的な生活習慣の確立・定着により、地域からも評価される雰囲気をつくる。	身だしなみ指導において、信頼を得る服装・頭髪を心がけるよう指導する。 登校時の遅刻対策のみではなく、自家用車での送迎による事故防止、さらに生徒の登下校のマナーの向上を図る。	頭髪指導及び、スカート・ズボン指導による、適正な制服の着こなし等が定着した。 登校指導に加え下校指導についても計画し、全職員による、実態の認識と指導の実践にあたった。
	進路指導の充実とそれを取り巻く環境整備に取り組む。	個に応じた指導を心掛ける。特に成績上位者に対しては、個別の指導を計画する。また、より効果的な進路指導ができるように各種進路情報を収集整理する。	成績上位者に対して個に応じた指導を行った結果、複数の国公立合格者を出すことができた。一般入試にチャレンジする者をもっと増やす必要がある。
保健厚生部	適切な職業観の育成	1年生のうちに、適切な職業観を養えるような行事を設定する。（1学期 ①進路適性検査、②外部講師による進路講話 2学期 ③大学見学会、④外部講師による進路講話）	1年生の1学期に、進路適性検査、進路講話と実施したが、単発の行事に終わってしまったくらいがある。行事の狙いを再確認し、STやLT、総合の時間を使って行事の肉付けをしてもらうように担任団に働きかける必要がある。
	教育相談について、校内の理解を深める。	学年中心で教育相談活動が行われているため、多くの教師が教育相談に対する専門性を高める必要がある。そのため、教育相談への校内の啓発活動を行う。	教育相談委員会を1回開催した。カウンセラー（臨床心理士）にも出席いただき貴重な助言をいただき、担任を含め、今後の生徒への対応に於いて有意義であった。さらに教育相談におけるチーム援助促進の工夫が必要である。
特別活動部	環境美化活動への意識向上に努める。	学習の場となるホームルームを中心に、清掃を徹底する。整理整頓された環境で、気持ちよく学習できる環境づくりへの意識向上を推進する。	教員の指導の下、生徒の美化意識の向上により、学校が少しずつきれいになってきたが、まだ教師の監督がないとできない生徒も多い。さらなる環境美化への意識の向上と工夫が必要である。
	生徒会活動や部活動、ボランティア活動の充実を図る。	生徒会組織を活発化して、積極的に学校行事に取り組む姿勢を喚起できるように指導する。部活動やボランティア活動への積極的参加を呼びかけ、社会性や人格形成の意識が高まるように指導する。	生徒会組織は活発化できたが、自主的な活動に取り組む意欲を喚起することは不十分であった。部活動やボランティア活動に積極的に取り組むことができたが、社会の形成者としての望ましい資質の向上は今後の課題である。来年度は、生徒会活動や部活動、ボランティア活動に主体的に取り組む姿勢を作りたい。
総合評価	P T A活動は活発になりつつある。役員、委員は協力的であるが、一般会員の参加率がまだ低い状況である。学校と保護者の協力体制が生徒の成長につながると考えられるので、一層の連携体制を作っていきたい。生徒の状況は、学校行事や部活動に積極的に参加する生徒が増加し、学校全体に勢いが出てきている。授業に生徒指導に、きめ細かく粘り強い指導を行ってきた成果の表れであると考えられる。特に授業においては、少人数指導を展開し指導体制を整えることで授業規律の向上が見られた。進路指導においては、個に応じた指導を行った結果、複数の国公立大学に合格者を出すことができた。さらに多様な進路希望に対応できるよう、進路を自ら考えられる環境づくりを推進していきたい。 全職員で指導にあたることが何よりも重要である。今後も、学年や分掌が中心となって組織で学校を動かしていく体制を作り、全職員で生徒を育てていく体制を維持、向上させていくことが重要な要素となると考える。		

イ 学校関係者評価結果等

学校関係者評価を実施した 主な評価項目	地域に愛され期待される学校づくりを推進する具体的方策について
自己評価結果について	<ul style="list-style-type: none"> ・ P T Aの一般会員の行事参加率は向上してきたが、役員、委員を通じてさらに多くの保護者にかかわりを持ってもらい、現状を見てもらう機会を多く持つことが大切である。 ・ 段階指導が定着し、教頭・教務主任を含む関係教員全員による指導が成果を上げており、授業規律も年々向上している。 ・ 身だしなみは、段階指導が定着し指導体制が整ってきており、正しい着こなし、さわやかな姿が定着してきている。 ・ 登校指導に加え、下校指導についても計画し、全職員による実態の認識と指導の実践に当たることが重要である ・ 進路指導においては、個に応じた指導を行った。その結果、複数の国公立合格者を出すことができた。一般入試に挑戦する者を増やしていきたい。 ・ 部活動は年々活発になってきており、地域からも評価されるようになった。部員のさわやかな挨拶や礼儀正しさも身につけてきた。また、地元や同窓会から協力を得られるようになった。 ・ 生徒会活動や部活動、ボランティア活動主体的に取り組む姿勢を作っていきたい。 ・ 地域への学校案内配布、写真を中心とした広報紙の掲示など、本校の現状についての情報発信を行い、一定の理解が得られた。
今後の改善方策について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自らが授業の必要性を感じる意識を醸成し、授業規律を向上させる。 ・ 清潔で好印象をあたえる身だしなみを、自ら考え、自らから進んで整えられるよう指導する。指導は担当者だけでなく、組織で指導する意識を持つことが重要である。 ・ 学校行事の狙いをより明確にして、生徒が自主的に取り組むよう、職員が丸となって生徒を成長させる体制を整える。 ・ 日頃の清掃活動を通じて環境美化に努め、清潔な学習環境の維持に努めるとともに、地域貢献による帰属意識の向上を図る。 ・ 部活動に自主的に取り組む意欲を喚起したい。社会の形成者としての望ましい資質の醸成が今後の課題である
その他（学校関係者評価委員 から出された主な意見、 要望）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教室環境が整っているの生徒が落ち着いている。環境整備を継続的に指導してほしい。 ・ 県立学校普通科としての今後のあり方を考えていかななくてはならない。 ・ 学校の状況は良い方向への動きが顕著である。この流れを大切にしたい。 ・ 学校の指導のおかげで地元主催の行事に協力的で、よい生徒が育っている。 ・ 世の中の変化を敏感に感じ取り行動できる生徒を育ててほしい。
学校関係者評価委員会の構 成及び評価時期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 構成 学校評議員 5 名 ・ 評価時期 2 月上旬

(5) 学校経営管理上の問題点

ア 地域・小中学校等・家庭との連携

- (ア) 家庭・地域に対し開かれた学校づくりを継続的に推進するとともに、学校説明会、授業公開や行事公開を積極的に実施し、実情を理解してもらうこと。
- (イ) 異校種との交流を通じて、連携や理解を一層深めるとともに、地域に信頼される学校づくりを積極的に進めること。
- (ウ) 学校から地域、保護者へ向けた情報発信を心がけ、地域、家庭との連携を強化すること。

イ 生徒指導充実のため

- (ア) 心の教育を推進するため、地域ボランティア活動への積極的な参加や、接遇（マナー・コミュニケーション）指導の充実を図ること。
- (イ) 心の健康づくり推進員派遣事業を活用し、生徒の相談活動と職員の研修を充実させること。
- (ウ) 部活動の強化・発展のため、地元外部コーチ導入などの具体的な支援を積極的に活用すること。

ウ 学習指導の充実のため

- (ア) 授業規律の確立をめざすとともに、個に応じたきめ細かな学習指導により、多様化する進路実現のための基礎・基本の定着を目指すこと。
- (イ) 振り返り学習、補習、土曜学習会等を充実をさせ、学力の向上を図ること。

エ 学校施設の安全管理・環境整備の推進のため

- (ア) 生徒、職員の安全のための施設・設備の点検や整備・補修の実施及び安全管理の徹底を行うこと。
- (イ) 学校における諸活動を円滑に進めるため、校内環境の総点検を行うこと。

本年度の学校評価

本年度の 重点目標	生徒の成長を第一に考える学校づくりを推進する ―― 生徒を主役とした教育の実践 ――		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
総務部	P T A行事の 活性化	役員会、委員会で、慎重に企画、検討を行う。各種研修会、講演会への参加者を増やす。案内が保護者の手元に確実に届くようにする。	P T A関連行事の立案、計画段階において、地域の行事等を考慮する。各種行事を早い時期に案内する。
	学校行事の円 滑な運営	式典実施に向けて、早い段階から分掌、学年への連絡、調整をはかる。生徒に自分たちの式典であることを自覚させる。	企画の段階で役割分担をしっかりと行い、全職員の意識を高め、協力体制をとる。式典の役割分担の中に生徒も組み込む。
教務部	授業規律の確 立に努める。	生徒の授業態度（授業遅刻、教科書・ノート等の持ち物、私語等）を履修要件にからめ、厳しい態度で授業に臨む。	日頃の授業はもちろんのこと、再考査指導・課題の提出もきちんと指導していく。また、追認考査の人数も減少させる。
	進学希望者の 学力を向上さ せる。	進学希望者、特別進学類型をはじめとする上位層にも目を向け、大学受験で生徒の進路希望が叶うよう学力をつけさせる。	進学希望者はもちろんのこと、就職希望者にも基礎基本的事項を定着させ、希望が叶うよう学力をつけさせる。
生徒指導部	基本的生活習 慣の確立・定 着により、地 域からも評価 される雰囲気 をつくる。	身だしなみ指導において、信頼を得る服装・頭髪を心がけるよう指導する。 いじめ防止のための適応指導、生徒面談を実施する。 登校時の遅刻対策のみではなく、自家用車での送迎による事故防止、さらに生徒の登下校のマナーの向上を図る。	頭髪指導及び、スカート指導、ズボンの腰履き指導を継続し、自ら正すことのできる意識を育てる。 設定された面接期間で確実に実施する。 登下校指導として、全職員体制で生徒の登下校時の実態の認識と指導の実践にあたる。
	適切な職業観 の育成	適切な職業観を養えるような行事を設定する。 (1年 ①進路適性検査、②外部講師による進路講話 ③大学見学会、④外部講師による進路講話 2年 ⑤インターンシップ ⑥外部講師による進路講話)	各行事とも、事前指導・事後指導を行い、類型選択や、模擬試験、保護者会等の各種進路確認の機会とも結びつけることによって、行事が単発に終わらないように留意する。
進路指導部	インターンシ ップのさらな る充実	2年生の就職を希望している生徒(一部)を対象に、新たに企業へのインターンシップを計画・実施する。	教員が無理なく対応できる範囲内で計画・実施する。
	教育相談につ いて、校内の 理解を深め る。	学年中心で教育相談活動が行われているため、多くの教師が教育相談に対する専門性を高める必要がある。そのため、教育相談への校内の啓発活動を行う。	教育相談の研修参加者を増やす。また、校外専門家からの講演を学校保健委員会で行う。さらに、配布物・ポスター等を積極的に配布し、教員への啓発活動を行う。
保健厚生部	委員会活動へ の意識向上に 努める。	学習の場となるホームルームを中心に、保健委員、美化委員の自主的な委員会活動ができる環境づくりを整える、自主性を育む。	各委員会で自分達のできることを、相談させ、自ら行動できるように委員会活動に全員で取り組ませる。
	生徒会活動や 部活動、ボラ ンティア活動 に主体的に取 り組む姿勢を 作る。	生徒会活動を充実して、生徒会組織の活性化を図り、積極的に学校行事に取り組むことができるように指導する。 部活動やボランティア活動への積極的参加を呼びかけ、本校のさらなる発展と地域への貢献の意識が高まるように指導する。	主体的に取り組む姿勢を喚起し、充実した高校生活を送ることができるように取り組ませる。 部活動のさらなる活性化やボランティア活動を通して、主体的に取り組む姿勢や社会の形成者としての望ましい資質の向上を図る。
学校関係者評価を実施する主 な評価項目	生徒の成長を第一に考える学校づくりを推進する具体的方策について ・授業規律の一層の向上について ・学校行事、部活動を通じた活気ある、心豊かな生徒の育成について ・挨拶・節度ある態度・正しい身だしなみができる生徒の育成、規範意識の高める指導について ・いじめの未然防止のための取り組みについて ・進路意識の向上について ・地元小中学校、東浦町教育委員会及び町内関係機関との連携の充実について		